

帆船日本丸を愛する男声合唱団 第27回定期演奏会



挿画:柳原良平

- ・新型コロナウイルス感染症は、過ぎ去ったわけではありませんので、気をつけながら演奏いたします。
- ・お客様のマスク着用は任意です。拍手は大歓迎です。

2023年8月5日(土) 14時開演

神奈川県立音楽堂

ご挨拶

本日はお暑い中、みなさま、ようこそお越し下さいました。心より感謝申し上げます。

港ヨコハマの地に「帆船日本丸を愛する男声合唱団」が誕生して29年目となりました。この3年間は休止および制限された方式での演奏会を余儀なくされましたが、今回は4年ぶりにここ神奈川県立音楽堂で、ステージ上の人数制限なく、客席数の制限もなく開催できるはこびとなりました。

昨年度まで7回の定期演奏会のご指導をいただいた大森いちえい先生が本務ご多忙のためご勇退され、ヴォイストレーナーをお務めいただいた大久保憲先生に第4代キャプテンをお願いし、ご指導いただきました。海の歌を楽しく歌い飛ばす曲もあれば、音楽性に留意した曲もあります。精一杯歌いますので、お楽しみいただけましたら幸いです。

帆船日本丸を愛する男声合唱団 一同

♪ プログラム ♪

Weather Side

1. Sailing, Sailing !
2. The Coast of the High Barbaree
3. The Boston Come-All-Ye
4. Maggie May
5. Botany Bay
6. The Fields of Athenry
7. Rio Grande
8. Leave Her, Johnny Leave Her
9. Goodbye, Fare Ye Well

Lee Side

1. 斎太郎節
2. 十三の砂山
3. ダンチョネ節
4. Red River Valley
5. The Water is Wide
6. Moon River
7. Pearly Shells
8. 浜辺の歌
9. Blow the Man Down

指揮：大久保 憲、キーボード：神谷季世子、ギター：鈴木敏幸、ベース：サリー佐藤

帆船日本丸を愛する男声合唱団

1994年5月、横浜市文化振興財団により「ワークショップ～男声合唱編」が開催され、その時の参加者とスタッフを中心に合唱団が結成される。幅広いがやや偏った年齢層、多種多様な職業、様々な経歴を持つ人の集まり。ぼけ防止も兼ねた音取りと暗譜に精を出し、練習後のビール・酒で忘れる乗組員も多い。合唱団の中に、ゴルフ部、飲み部、登山部、スキー部、麻雀部等も結成。毎年1回の定期演奏会に加え、さまざまな機会に出演し、活動の幅を広げている。

2003年7月には、オランダで開催された世界帆船まつり「デルフセイル2003」に招待出演。2014年7月、ノルウェー・ベルゲン市、世界帆船まつり「トールシップ2014」に招待出演。ベルゲン市の船長組合合唱団と交流を深め、また、ロック調でシーシャンティを歌う「ストームウェザーシャンティックワイア」とも共演した。

国際シーシャンティ協会(ISSA)には、アジアの合唱団で唯一加盟。帆船日本丸記念財団の会議室で毎週火曜日に練習を重ねている。

プロフィール

大久保 憲

東京藝術大学声楽科卒業。イタリア留学時、ミラノにおいてオペラ、コンサートに出演。帰国後、二期会、新国立劇場メンバーとしてオペラ公演に多数出演。当合唱団第4代キャプテン。

神谷季世子

国立音楽大学教育音楽学部卒業。ブライダルオルガニスト。都内ホテルラウンジにてピアノ演奏。ジャズピアノを辛島文雄氏に師事。ヤマハポピュラーミュージックスクール講師。ライブハウス等で活躍中。

鈴木敏幸

尚美高等音楽学院（現、尚美学園大学）修了後、ジャズギターを宮之上貴昭氏に師事。現在、横浜、東京等を中心に幅広く音楽活動をする中、自己のグループにおいてライブハウス等で活躍中。

サリー佐藤

ベースプレーヤー。ジョン・ヒックス（ピアノ）、ハンニバル・M・ピーターソン（トランペット）と「We Four」をレコーディング。現在、オールマイティなベースプレイヤーとして、横浜のライブハウスを中心に活躍中。

大町正人（第1回～第14回） 当合唱団創業者・初代キャプテン、元ボニージャックスリードテナー。

白石卓也（第15回～第19回） 第2代キャプテン、オーケストラ・合唱指揮者。

大森いちえい（第20回～第26回） 第3代キャプテン、新国立劇場で数々のオペラに出演中。

大町ますみ ソプラノ歌手、当合唱団ヴォイストレーナーを長く務める。

石黒孝子 ピアニスト・音楽講師、当合唱団のシーシャンティを多数編曲。

篠田昌伸 作曲家・ピアニスト、当合唱団のシーシャンティを多数編曲。



シー・シャンティとは

シー(sea)は海、シャンティ(shanty, chanty)は歌。帆船時代に大型の横帆船の甲板上で船乗りたちがうたった労働歌です。仕事の内容に応じて3つのタイプに分けられます。第1は「ショート・ホール・シャンティ」、比較的短時間で素早くロープを引くなどの仕事をする際に歌ったものです。第2は「ハリヤード・シャンティ」、帆布を張るなど長い時間と重労働を必要とする際に歌われました。第3は、「キャプスタン・シャンティ（あるいは、ウィンドラス・シャンティ、ポンプ・シャンティ）」、アンカーを巻き上げる時など、長時間繰り返しの多い、かつ一定のリズムを要求されるような作業をする際に歌われました。

この他に労働歌ではありませんが「フォクスル・シャンティ」と言って、非番の船乗りたちが彼らの船室でくつろぎのひと時に歌った歌があります。バラッド風で、滑稽なもの、恋人のこと、冒険、歴史上の人物などを題材にした歌の多いのが特徴です。

Weather Side (風上) シーシャンティ

1. Sailing, Sailing traditional sea shanty、編曲：Roger Wagner

さあ出帆だ、波躍る大海原へ。日本丸演奏会のオープニングを飾るにふさわしい曲です。大型のバーク船（注：日本丸は4本マストバーク船です）が、お詠えの追い風に乗って波躍る大海原の彼方にある自由の国に向かって出航する様子を描いています。今夜の旅立ちの前に、故郷と美しい女性たちのために歌をうたおう、船乗り乾杯、兵士乾杯と、胸は高なります。

2. The Coast of the High Barbaree traditional sea shanty、編曲：小林正明・大町正人

ハイ・バーバリ海岸は北アフリカ、モロッコのリフ海岸の別名で、この地域にベルベル人が住んでいたことに由来します。この歌は、バーバリ海岸沖で海賊船に出くわした帆船が、海賊を打ち負かし、海賊は溺死させられたという物語です。イギリスとアメリカの船員の間で非常に人気がありました。

3. The Boston Come-All-Ye traditional sea shanty、編曲：Norman Luboff、小林正明

元はスコットランドの漁師の歌です。漁船の船長が若い漁師たちを集めて“魚の歌”を歌って海で働く楽しさを宣伝するという趣向です。クジラ、サバ、イルカ、ワカサギと言った様々な魚が登場します。

4. Maggie May traditional sea shanty、編曲：篠田昌伸

貰ったばかりの給料を手に陸に上がった一人の水夫が、マギー・メイと言う別嬪の女と一夜を共にするのですが、翌朝気が付くとお金も衣服もすっかり無くなっていた。その時の失敗談を仲間に自嘲気味に言って聞かせるという滑稽話です。どうやら彼女は盗みの常習犯だったようで最後は流刑地へ追放されたそうです。

5. Botany Bay traditional sea shanty、編曲：石黒孝子

ジェームズ・クック(1728-1779)は、イギリスの海軍士官、海洋探検家、海図製作者で、キャプテン・クックと呼ばれ、世界一周航海を3回おこなっています。第1回航海は、1768年8月25日にプリマスを出航し、ホーン岬、タヒチ、ニュージーランドを経て、1770年4月19日にオーストラリアの東海岸に出会い、海岸沿いに北上、4月28日にボタニー湾の入口を発見し、5月5日まで滞在しています。

この地は、クックの航海に同行した2人の植物学者バンクスとソランダーが、この地で多くの新植物を発見し貴重な植物標本を持ち帰ったことから、植物学湾(ボタニー湾)と名付けられました。

クックの航海の後、アメリカ独立戦争が起こり1776年にアメリカが独立します。イギリスは囚人を収容する場所としての植民地アメリカを失ったため、クックの報告書から新しい流刑地の候補地としてボタニー湾を特定しました。そして1780年、最初の開拓移民として730人の囚人と250人の一般人がこの湾に上陸しました。

この歌の主人公は路上で警官を殴って警棒を奪った罪で、オーストラリアへ島流し。悔悛の情と共に、祖国を懐かしみ、恋人を思い、若者に自分のようなまねはするなと戒めるのです。

6. The Fields of Athenry 作詞・作曲：Pete St. John、編曲：石黒孝子

この曲は、1840年代にアイルランドを襲った大飢饉のさなか、食料を盗んだ罪で捕らえられた人々がボタニー湾に送られたという史実を題材とし、1979年につくられました。歌詞は、飢えに苦しむ家族のため

に一人の男がイギリス貴族の大地主、トレヴェリアンの畑からトウモロコシを盗んだため、監獄に入れられ、やがて愛する人と別れ、流刑地の豪州ボタニー・ベイへ移送されるという内容です。

この曲は、アイルランドの人々にとってはサッカー、ラグビーなど、スポーツの応援歌として広く歌われています。そうなった経緯は、次のように説明されています。

「セルティック・フットボール・クラブは、スコットランドのグラスゴーを本拠地とするプロサッカークラブで、地元グラスゴーの人だけでなく、アイルランドやスコットランドのアイルランド系の人々の間で多くの支持を得ています。というのも、1840年代のアイルランド大飢饉の際、10万人のアイルランド人をグラスゴーは受け入れてくれたからです。セルティックで長く活躍したアイルランド人ゴールキーパー、パッキー・ボナーが1991年にグラスゴーで引退試合を行った際、この歌の作者ピート・セント・ジョンを招待しました。試合前の観客に向けてのスピーチで、セント・ジョンはまず、飢饉の犠牲者を世話してくれたグラスゴーに感謝し、何千人ものファンとともにこの歌を演奏しました。」

これがきっかけとなって、アイルランドのスポーツの応援歌となったのです。

7. Rio Grande traditional sea shanty、編曲：Norman Luboff、小林正明

もっともポピュラーなシー・シャンティの一つです。外国行の帆船が錨を巻き上げる時などに歌われました。このリオ・グランデは、アメリカ・メキシコ国境を流れる川のことでなく、ブラジルの最南端に位置する州の名前で、ポルトガル語で「南の大きな河」を意味するそうです。

8. Leave Her, Johnny Leave Her traditional sea shanty、編曲：Roger Wagner、小林正明

この歌は主として航海を終えた船がドックに入ってアカにまみれた水をポンプで汲み出す時などに歌われました（ポンピング・シャンティのひとつです。）。航海は長いし、仕事もきつい割には一般に船乗りの給料は安かったため、不満の種は尽きなかったようですが、たまたま一人の水夫が船長から聞いたと言って、明日給料を貰ったら、仕事も済んだことだし、こんな船とはおさらばする、いい潮時だと他の仲間たちに声を掛け、荷物をまとめて船を降りる決心をする、といった内容です。

9. Good bye Fare Ye Well traditional sea shanty、編曲：Robert Shaw、小林正明

この歌は船が帰航する際によくうたわれた歌の一つです。錨を巻き上げる際に、ウインドラスやキャプスタン（錨などを巻き上げる装置）の場所で歌われました。寄港地で親しくなった若い娘達とも哀しい別れの時がやってきたが、一方で懐かしい故国に帰ることが出来る嬉しさもある、と言った船乗り達の複雑な心の内が見えていて、とても哀感のある詩です。メロディーも静かで大変美しいものです。



休憩・換気

Lee Side (風下) 海の歌、ほか

1. 斎太郎節(さいたらぶし) 宮城県民謡、編曲：竹花秀昭、再編：大町正人

宮城県松島湾沿岸一円の民謡。大漁唄い込みとしても知られています。低音部のエンヤオット(エンヤドット)のリズムに乗せて、高音部が朗々と歌います。風光明媚な「松島」「瑞巖寺」「石巻」「日和山」を背景に、勇壮な漁師が網を引き、大漁を祝います。

2. 十三の砂山 青森県津軽民謡、編曲：篠田昌伸

青森県十三湖（じゅうさんこ）と日本海に挟まれた砂州には、中世安藤氏の時代には十三湊（とさみなと）という港町が栄えていました。十三湖は日本海の荒波を越えてきた船が帆を休めるのに絶好の場所でしたので、西廻りの北前船（弁財船）が若狭を経由して松前に通う際、本州の一番北に位置する十三湊は重要な寄港地でした。北前船は、物資を運ぶだけでなく、宗教、文化、芸術等の交流も担いました。

海が荒れ出帆できず、十三湊に長く滞在していましたが、いよいよ風もよく松前に向けて船出するのですが、土地の人の厚情に触れてきて別れがたくて涙も出た、と歌います。

十三の砂山、ナア、ア、ヤーエ、米なら良かるナ 西の弁財衆にゃ、ただ積ましよ
沖の暗いのは、ナア、ア、ヤーエ、蟹田の嵐ナ 親父、帆を巻け、舵も取れ
十三を出る時や、ア、ヤーエ、涙で出たがナ 尾崎かわせば一エ 先や急ぐ
ツツジ椿はナア、ア、ヤーエ、山で咲くがナ 今は十三船の鞆で咲く

3. ダンチョネ節 神奈川県民謡、東京高等商船学校学生による替歌、編曲：石黒孝子

大正時代の流行歌で作曲者および作詞者は不明。神奈川県三浦市三崎町を中心に広まり、神奈川県のみならずとされます。ダンチョネ節は船乗りの悲哀を歌っており、その節を使って色々な替え歌が作られました。東京高等商船学校の学生によって愛謡され、また軍隊でも唄われるようになりました。

各節の最後に入る囃子詞「ダンチョネ」は、漁師の掛け声とも「断腸の思い」から来ているともいい、語源には諸説あつてはつきりしません。

東京高等商船学校に関しては練習船月島丸の遭難（1900年、学生79名を含む122名全員が消息不明）と関連付ける説があり、その後継となった大成丸を歌い込んだ歌詞も伝えられています。

4. Red River Valley アメリカ民謡、編曲：石黒孝子

エディス・フォークと言うカナダの民俗学者によると、この歌は少なくとも5つのカナダの地方で知られた古い秘話が基になっていて、1870年、カナダのウールズリー遠征隊が北部レッド・リバー・バリーへ行った際に作曲したと言われます。遠征隊に加わっていた白人男性とネイティブ・アメリカン（インディアン）の女性が恋仲になったのですが、やがて男性には村を去る時が来ます。その時の地元の女性の辛く切ない恋心を表現した歌です。

5. The Water is Wide スコットランド民謡、編曲：石黒孝子

非常に有名な歌で、かつて、NHKの朝ドラ「花子とアン」でスコット先生が歌い「マッサン」ではエリーさんが歌っておりました。はじめは思いやりのある愛も、年が経つにつれ老いて次第に冷たくなり、やがて朝露のように消えていく、という歌詞は、困難な愛への挑戦を歌ったものと言えます。

6. Moon River 作詞：Johnny Mercer、作曲：Henry Mancini、編曲：石黒孝子

1961年に制作された映画「ティファニーで朝食を」の主題歌としてつくられた歌で、主人公ホリーを演じるオードリー・ヘプバーンが窓辺でギターを弾きながら歌って一躍有名になりました。そしてこの年のアカデミー歌曲賞を受賞しました。

7. Pearly Shells (真珠貝の歌) 作詞：Webley Edwards、作曲：Leon Pober、編曲：石黒孝子

この歌はハワイアン・ソングで、古くから歌われ、フラダンスを踊るときに演奏されるなど、ハワイでは大変親しまれています。日本でも1960年代にビリー・ヴォーン楽団の演奏が大ヒットしました。

♪真珠貝は砂浜で美しく輝いているけれど、どの真珠貝よりも私は貴女のが大好きです♪
といった内容のラブソングです。

8. 浜辺の歌 作詩：林 古溪、作曲：成田為三、編曲：西崎嘉太郎

大正時代初期に発表された日本の唱歌。「浜辺」の場所は特定されていませんが、神奈川県海岸とする説が有力です。詩は文語調で、若干難解な表現が散見されます。

あした浜辺を さまよえば 昔のことぞ しのぼるる
風の音よ 雲のさまよ 寄する波も 貝の色も
ゆうべ浜辺を もとおれば 昔の人ぞ しのぼるる
寄する波よ かえす波よ 月の色も 星のかげも

9. Blow the Man Down traditional sea shanty、編曲:篠田昌伸

横浜のプロバスケットチーム「ビー・コルセアーズ」の本拠地開幕戦でも歌わせていただいた曲です。「相手チームをぶっ飛ばせ」と応援いたしました。

19世紀後半、ニューヨークとリバプール間を就航していた高速定期船 **Black Baller** は船足が速く航海日数が短かったため、その分早く給料がもらえることで乗組員には人気がありました。彼等の多くはこの大型快速帆船に乗ることを希望したそうですが、この船の船長は手荒なことで知られ、船上での規律を守るためとはいえ、乗組員たちが甲板上で不当に殴打されることがあった、と云います。ハリヤード作業の際に歌われたシャンティです。

創立 30 周年記念第 28 回定期演奏会は 2024 年5月4日(土)に開催します。

団員募集中です。オーディションはありません。
海が好きな方、船が好きな方、歌が好きな方、一度見学にお越し下さい。
詳しくは、ホームページをご覧ください。 <http://home.k01.itscom.net/ssnippon/>

帆船日本丸を愛する男声合唱団・第 27 回定期演奏会

実行委員長：西山 豊 表紙画提供：柳原良平画伯 シーシャンティ解説：宮崎多加雄

後援：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、公益財団法人帆船日本丸記念財団

朝日新聞横浜総局、神奈川新聞社、**tvk** (テレビ神奈川)

令和 5 年度神奈川県文化芸術活動団体事業補助金対象事業

参考文献：William Main Doerflinger “Songs of the Sailor and Lumberman”、

Stan Hugill “Shanties from the Seven Seas”、Wikipedia ほか。

印刷：(有)印刷工房



帆船日本丸を愛する男声合唱団・長寿番付

東				蒙御免	西			
横綱	山中 容美	B1	和歌山		横綱	小永井 晃	T2	鎌倉
大関	丸山 一義	T2	久が原	大関	川島 通明	T2	田子の浦	
大関	推野 浩一	T2	南品川	大関	*宮崎 多加雄	T2	三ツ沢	
関脇	奥 忠恕	B2	逗子	関脇	木村 正次	T1	大阪南	
関脇	稲垣 孟	B2	池尻	関脇	原田 實	B1	北河内	
小结	杉野 雅彦	T1	福岡	小结	岩尾 信正	B2	尾張	
小结	本間 英臣	T2	満洲幸東	小结	鈴木 昭	T2	久里浜	
前頭一	新西 實	T2	滝野川	前頭一	伊藤 隆輔	B1	鶴見	
前頭二	佐藤 精吾	B1	鶴見	前頭二	須藤 義太郎	T2	保土ヶ谷	
前頭三	岡本 昭男	T2	豊岡	前頭三	波多野 義重	B1	大連	
前頭四	*依山 大祐	B2	哈爾濱	前頭四	西山 豊	B2	樺太豊原	
前頭五	西川 正留	B2	浜田	前頭五	廣原 健	T2	横須賀	
前頭六	岸本 征夫	T1	天津	前頭六	北村 知士	B1	東玉川	
前頭七	荒津 一郎	B1	福岡	前頭七	*山口 清隆	T1	衣笠	
前頭八	*長崎 浩一	B1	薩摩	前頭八	*大崎 逸朗	B2	上州	
前頭九	鶴野 正樹	B1	遠野	前頭九	*石井 邦雄	T1	旭ヶ丘	
前頭十	*高野 初徳	T1	宝塚	前頭十	新木 邦男	B1	東蒲原	
前頭十一	丸山 隆男	T1	佐久	前頭十一	大橋 博	B1	元町	
前頭十二	鈴木 純	T1	佐世保	前頭十二	野本 秀雄	T2	博多	
前頭十三	山路 永司	B2	石鏡山	前頭十三	*江野村 勝	T1	大倉山	
前頭十四	近藤 師雄	B1	武蔵野	前頭十四	*雨宮 伊依	B1	甲州	
前頭十五	◆須藤 信行	B2	山城	前頭十五	近森 茂雄	T1	土佐	
前頭十六	二村 修	T2	南河内	前頭十六	飯島 伸雄	T1	伊東	
前頭十七	◆大和 浩章	T2	発寒	前頭十七	*鈴木 重幸	B2	神奈川	
前頭十八	*櫻井 善紹	B2	津山	前頭十八	◆熊田 公信	T1	神田	
前頭十九	*中村 圭一郎	T1	鷺沼	前頭十九	倪 瀚波	B1	寧波	
前頭二十	◆須賀 達彦	T1	上大岡					

親方・キャプテン
 大久保 憲
 新宿十二社
 創設者・キャプテン
 第二代キャプテン
 第三代キャプテン
 大森 卓也
 白石 元也

T1部屋(トップテナー)	出場 9名 休場 6名	部屋頭: 岸本征夫	最高位: 関脇(84歳)
T2部屋(セカンドテナー)	出場 73名 休場 2名	部屋頭: 鈴木 昭	最高位: 横綱(89歳)
B1部屋(バリトン)	出場 72名 休場 3名	部屋頭: 新木邦男	最高位: 横綱(97歳)
B2部屋(バス)	出場 7名 休場 5名	部屋頭: 岩尾信正	最高位: 関脇(84歳)

番頭(団長) 山路永司 技芸取組(副団長) 丸山隆男 庶務取組(事務局長) 鶴野正樹

◆氏名 = 初土俵(定期演奏会初出演) *氏名 = 休場(陸上持機)